

暗唱

1年B組の教室に入ると、みんなが音読をしています。「吾輩は猫である。名前はまだない。どこで生まれた…」声にすることで冒頭文を暗唱していました。担当に声に出しながら暗唱をしている理由を訊くと、「勉強の基本です」と答えが返ってきました。脳の研究成果を基にゲームの監修などでお馴染みの東北大学川島隆太教授は、音読や計算を繰り返すことで脳の前頭前野は活性化し、音読直後の記憶の容量は何もしない時に比べ20~30%も増えるのだといいます。“声に出す・暗唱する”勉強の基本と言ってよいでしょう。



思い起こせば、私が中学生時代に、“枕草子”や“平家物語”の冒頭文を暗唱させられました。

『春はあけぼの やうやう 白くなりゆくやまぎは すこしあかりて…』

【現代語訳】 春は、あけぼのがよい。だんだん白くなっていく山際が、少し明るくなり…

『祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。娑羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。たけき者は…』

【現代語訳】 祇園精舎の鐘の音は、この世の全ては常に変化し続け、同じ状態のままではいられないという響きがある。娑羅双樹の花の色の移り変わりは、盛んな者も必ず衰えるという物事の道理を示している。おごり高ぶっている人の栄華も長く続くものではなく、まるで覚めやすいと言われる春の夜の夢のようである。勢いが盛んな者も…

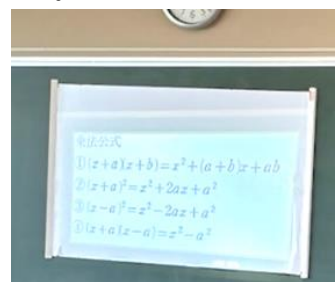
今思えば、脳の活性化、記憶容量の拡張を目指し、取り組んでいたのかも。

3年生は数学でした。“乗法公式”を学んでいました。これも暗記が必要となります。私は以下の乗法公式が好きでした。

$$(a + b)(a - b) = a^2 - b^2$$

自乗引く自乗のすっきりした形になるのです。ナント美しい!!「和と差の積は 自乗の差・和と差の積は 自乗の差」と繰り返し暗唱したものです。

さて、本校の特色ある教育のひとつとして「伝える力の育成」を挙げています。自分の考えを言葉にする力やプレゼンテーション力を鍛えます。ペアワークやグループワークによる意見交換は土台です。まずは小さなグループで自分の意見を伝えられようになる。次にクラスの前で、そして学年の前でやがて全校の前で。22日に生徒朝礼が行われました。



全校の前における発表です。生徒会長の言葉「活動目標は、『有言実行～笑顔のために意見を言える学校へ～』に始まり、生徒会役員、議長、委員長が語りました。言うべきことを暗唱しすらすら語る委員長、途中でつまずき原稿をちらっと見る委員長、原稿を読み続ける委員長と様々でした。それぞれの 事情の差 が出ました。これから

“伝える力”をどんどん育成していきます。原稿凝視のスピーチから、チラ見へ。チラ見から暗唱へ。少しずつ成長していきます。

1年生は、自分の想いを言葉にする練習“三行詩”に取り組んでいます。その作品の中に強い決意を見つけました。

『こんなにちっちゃい種でも いつかは絶対大きなひまわりに 育つから』
最初はだれもがうまく発表できない。原稿を見ても良い、それでもいつかは!!
そして、暗唱できたからと満足はしません。

おごれる人も久しからず。

暗記したものをただ語るだけでなく、観客との対話へと進化するよう精進します。

